

海を望む古い町、水道クルーズ

広島東部 瀬戸内の情緒を楽しむ

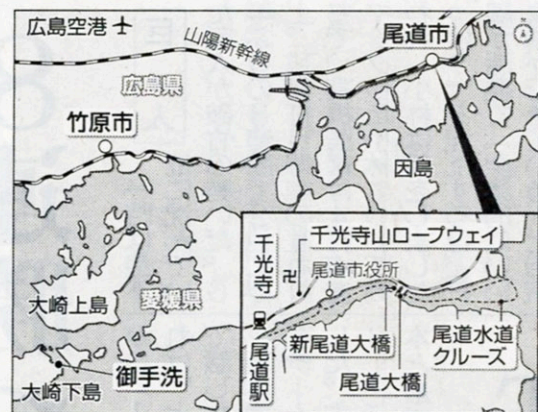
江戸時代に瀬戸内海の海運の拠点として栄えた大崎下島の御手洗・製塩・酒造業で栄えた竹原市、広島東部の瀬戸内海沿岸に残る情緒漂った町並みを歩き、尾道市ではクルージングも楽しんだ。



千光寺から尾道水道や市街地を望む
＝広島県尾道市



重要伝統的建造物群保存地区の町並み
＝広島県竹原市



瀬戸内海の広島県と愛媛県の間につながる島々の一つ、大崎下島。東部の御手洗（呉市）は、「風待ち、潮待ちの港」として江戸時代に発展した古い町だ。幕末、吉田松陰や三条美実らも立ち寄った記録がある。町並みは重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、江戸・昭和初期の建築物が続く。

とりわけ立派な蔵造りの建物は、広島藩の公認で営業していた江戸時代のお茶屋「若胡子屋」跡。向かいの元しょうゆ蔵とともに白壁が風情を醸し出す。最盛期には、100人ももの遊女や芸妓を抱えていたといわれ、おいらんを世話する女の子がお齒黒が原因で悲惨な死を遂げる「おはくろ伝説」も残る。内部は無料で公開されている。

田経営者が江戸時代に建てた豪邸「松阪邸」など、かかつての栄華をほうふつさせる町並みが続く。坂が作りだす独特の町並みが人気の尾道市。JR尾道駅近くの駅前棧橋から、クルーズ船に乗船した。尾道大橋、新尾道大橋をくぐって、尾道水道を往復する40分ほどのコース。本土と向島を隔てる狭い海路を、渡船や作業船がのんびりと行き交う。

観光ガイドの石田雅恵さんは「夜になると、星がすぐきれいで、手を掲げると、星に届くかのような感じがします。そんな中に、幕末から明治維新にかけての物語が詰まっています」と魅力を語ってくれた。

下船後は5分ほど歩き、標高差115段を一気に上られる千光寺山ロープウェイに乗った。数分で山頂に着くと、ハートの中に寄り添う白い2匹の猫がデザインされた「恋人の聖地」のモニュメントが迎えてくれた。尾道ゆかりの文人や林芙美子や志賀直哉、松尾芭蕉らの碑が続く「文学のこみち」を下り、千光寺へ。先ほどクルーズした尾道水道や市街地を一望できた。

◆
メモ 問い合わせは呉市豊町観光協会（御手洗）

（電話0823・67・2278）、竹原市観光協会（電話0846・22・4331）、尾道観光協会（電話0848・36・5495）。